

令和7年度 第1回江北町地域公共交通会議 議事録

1. 日 時：令和7年4月24日（木）
2. 場 所：江北町公民館3階 大ホール
3. 出席者：下表のとおり

【構成員】

番号	役職	氏名
1	会長	井上 敏文
2	委員	山田 恭輔
3	〃	吉田 功
4	〃	藤井 恵子
5	〃	田口 英男
6	〃	小林 広和
7	〃	古賀 積
8	〃	平川 弘昭
9	〃	池田 和幸
10	〃	坂井 正人
11	〃	山口 守
12	〃	牛島 英人
13	〃	田口 博文
14	〃	草野 武生
15	〃	古賀 秀明
16	〃	阿部 俊浩
17	〃	井上 信
18	〃	牟田 嘉伊座
19	〃	江口 里司
20	〃	白濱 謙吾
21	〃	馬場 智生

【事務局：総務政策課】

番号	役職	氏名
1	副町長	山下 宗人
2	課長	山中 博代
3	課長代理	小野 政己
4	企画情報係係長	大塚 健司
5	企画情報係主査	古賀 元気
6	企画情報係主事補	古賀 優梨愛

4. 議 題：(1) 江北町の地域公共を取巻く現状について
(2) 江北町地域公共交通事業者の現状について
(3) 今後の地域公共交通の在り方について
-

○ 開会（山中課長）

○ 町長挨拶

○ 会長挨拶及び副会長の指名について

会長 井上敏文 副会長 池田和幸

○ 江北町地域公共交通会議について（小野課長代理）

—資料説明—

○ 議題①江北町地域公共交通を取巻く現状について

【山田町長】

今回議長に会長をお願いしたのは、我々町も、当事者の一人ではないかなと思うからです。今日は利用者の方も、事業者の方もいらっしゃいます。また江北町以外の方もいらっしゃるの、ニュートラルな立場で臨み、ほかの自治体の事例も参考にしたいと思えます。

もう一つは先ほど町営タクシーのご紹介があり、町営タクシーが注目を集めていますが、新しい時代の住民の皆さんの移動手段を確保するためなら、町が積極的に関与していかねばなりません。免許を返納された方に差し上げているタクシーチケットについては、なかなか使って頂けてないということ、問題意識をもって捉えています。また、老人クラブ連合会からは、移動手段の確保、免許の返納・更新等にかかる要望事項を「嘆願書」として頂いています。いろんな可能性はあると思えますが、町営タクシーを象徴的にあげました。

どのようなものが江北町にふさわしいか、十分なご議論をお願いいたします。

—江北町より報告—

【老人クラブ連合会会長】

75歳から後期高齢者の免許の更新ですが、年を取ると忘れることも多く、更新の手続きがなかなか難しいです。そこでもう免許証は返納してはどうか、ということ言われます。巡回バスがあっても、なかなか自分たちが必要な時に循環バスがないので困るのです。

そして、町長の方からタクシーチケットの使用率が悪いとの指摘がありましたが、自分が必要な時にタクシー会社に電話をしてもタクシーが1台もないのです。駅の前にはタクシーがいなくて、電話番号も公表していません。あれは町民の駅ではないでしょ

うか。現在町民の方が不自由な思いをしているということを考えていただきたいと思います。

循環バスについては、あまり必要ないのではないか、私たちとしては費用対効果の面からは廃止してはどうかと話したら PTA の方から怒られました。確かに通学時間は利用されているようです。しかし、後は全部空気を運ぶようなもので、このような実態が問題として指摘されています。高齢者や妊婦のために、毎年やってくれと言われるが、非常に気の毒に思います。

高齢化の現在について、忌憚のない意見を出して頂いて、高齢者に対する回答を出して頂ければと思います。

【山田町長】

先ほど嘆願書の件を話しましたが、もしこのまま役所として、手をこまねいていると、どうということになるかなと思ったのですが、実は今日名簿の中に、大西未来ネットワークの会の坂井さんがいらっしゃいます。助け合いの範疇でいろいろなことをされています。失礼ですが、老々介護ではないが、いよいよ方法がなければ、共助でやらないといけない、状況が何も変わらないのはいけないなと思います。だから町もちゃんと入って、町民の皆様の協力を頂いて、やるのが本当の姿だと思います。持続性ある形にするにはやはり、役所が入ってやるべきだと、今回こうやって会議を設けております。

議題①について要望・意見

【区長会会長】

佐留志・惣領分地区で話し合いましたが、私が買い物に行くとき、「ちょっと乗せて」と言われますが、自分の子どもたちに怒られます。だからといって「ごめん、子どもに怒られるから」とは言えません。

今、武岡病院などは必ず送迎されています。考えて頂きたいのは、地元です。この町内のことです。商売のこととか関連あると思いますが、自分のことに立ち返ってもらってお願いします。「乗せて」に対して断ることはできず、「いいよ、ジャスコまでぐらい」となりますけど、子どもたちは、事故を起こし、乗せた方に怪我させたら大変だと心配なのだと思います。だから、その辺も含めて対策を考えて頂きたいと思います。

【PTA】

岳、花祭方面からの循環バスは、朝大変利用者が多いです。帰り時間になると、児童の下校時間もバラバラで利用者数は少ないです。

親の送迎が常にできるのかと考えたときに、循環バスは非常にありがたいです。ただ、循環バスの時間帯に関しては見直しをしていただければ利用者数などは増えるのではないかと思います。

花祭・白木方面の親の立場からすると、子どもを近くのバス停まで送れば後は大丈夫という安心感はあるかと思います。

【育友会】

子どもが中学生になれば、行動パターンもほぼ自転車通学が始まり、自転車は公共交通機関ではないですが、少し形はずれるかもしれませんが、雨天時は送迎がかなり多くなるという事情がありますので、子供達には地域の方からの期待として、登下校時の交通マナーを守ってほしい、ということがあります。

【商工会】

商工会にも買い物バスというのが役員会の中で出ていました。

ちなみに私は上小田からですが、朝は、バスは満員で、子供たちも助かっています。帰りは少なくはなりますが、校門の前までバスが来ますので助かっていると思います。

買い物バスについては、今は小城の方まで行ってもらっているのが非常にありがたいです。

また駅南の方までバス停ができ、学生が助かっている面もありますが、時間的な問題があります。買い物をする時間にちょうどバスが来るのか、という問題もあり、この辺はこの会議の中で意見を出して頂きたいです。

○ 議題②江北町の地域公共交通事業者の現状について

—祐徳自動車・佐賀タクシー・杵島タクシー・JR 九州佐賀鉄道より現状報告—

【祐徳自動車】

生活交通路線バスとして佐賀線、武雄線が運行されています。佐賀線とは、鹿島の祐徳稲荷神社から、鹿島市、白石町、江北町、小城市、佐賀駅バスセンターに至る路線で、武雄線とは、武雄市から、大町町、江北町、小城市を通して佐賀駅バスセンターに至る路線です。ほとんどが JR の佐世保線、長崎本線とほぼ並行します。

鹿島、武雄、江北の方が佐賀に行くときには、ほとんどの方が自家用車を利用します。自家用車以外の方はなかなかバスを利用しようとしません。今までは毎日出勤していた方が、週に何日かの出勤に変わるなど、リーマンショックや、コロナ等の影響で、町民、市民の地元の方も、生活・仕事のスタイルが変わっています。

【佐賀タクシー】

令和元年までは(有)ユタカタタクシーとして営業していたものを、そのまま佐賀タクシーが譲り受けて、営業を継続して今日に至っています。

現在杵島郡を営業区域として、普通車 6 台、社員 6 名で営業しています。事業の効率化のため運営を少しでも持続できるようにするため、電話については、地元には担当を置かずに、本社の方に電話を転送して対応するというようなことをしています。運行管理については、本社の方から、毎回こちらに出てきてチェックをするという形で、進めているところです。状況については、平成 8 年のピーク時には 95 百万あった年商が、

令和6年3月期には20百万円に激減。台数を減らした要因もあります。

R4年9月 西九州新幹線部分開業に伴い江北駅乗降客数減により利用者減、現状の売上では管理人件費、設備更新費用等が賄えず、本社負担で実質赤字です。本社の経費負担が無ければ継続は不可能です。本社としては、この状態をいつまでも続けていくことができるのか、が大きな問題です。無線配車は佐賀本社にて転送電話を受けて IP 無線による配車を実施しています。

現状の課題としては、売上の減少による収益のマイナス、借金を重ねて何とか継続していることです。残念ながら、売上、輸送人員数等コロナ前の水準に戻っていません。一部地域では、回復している所もありますが、江北町に至っては、戻っていません。現状の収支がマイナスの状態なので、将来的に厳しい事態も想定されます。

今後の課題としては、ドライバーの確保、勤務条件の改善等があります。また、今回様々な動きがあった中で、弊社としては、今後について、どうあるべきかということを考えているところです。

【杵島タクシー】

現在の営業所の所在地ですが、江北町の上小田です。営業区域は江北町です。認可台数は普通車3両（保有車両は2台）。社員数は1人ですが、現在、私と妻でやっています。営業形態は、365日車庫待ち営業（元旦のみ休業）で、営業時間は8時から20時までです。

令和5年度輸送実績は、営業収入 8,094千円、運送回数 6,118回（1日平均17回）。輸送人員 8,101人（月平均675人）です。

事業開始は昭和34年6月で、以来地域に密着した営業を行っています。

私が乗り始めたのは大体20年ほど前ですが、その時同時にジャンボタクシーを1台導入し、何とか経営改善を図りました。その時は5台ありました。コロナ前まではこのジャンボタクシーがよく動いていましたが、コロナで利用がなくなり、認可台数普通車3両となり、現在に至ります。

乗客の9割程が上小田地区を中心とした高齢者で、可能な限り予約も受け付けています。江北町内での主な降場所としては、江北駅・江北町役場等公共施設、商業施設（イオン・ダイレックス・コスモス等）があります。

病院は送迎している施設もあるので、専門医（眼科・歯科等）への送迎が多いです。

【JR九州佐賀鉄道】

こちらの駅は江北駅ですが、この地域を一番よく知っているのはこの地区に住む皆様だと思います。ちょっと紹介になりますが、免許を返納して頂くと、1か月間7000円で佐賀駅から福岡エリアまで列車に乗れます。

○ 議題③今後の地域公共交通の在り方について

—江北町より説明—

【山田町長】

今日いろいろお話を頂いて、最初に地域公共交通会議で議論する交通機関として、1つは、循環バス、それとタクシーの2つということですね。

先ほど循環バスについては、いろいろ話が出ていました。一定の見直しも必要ということもありました。しかしまず、先ほど老人クラブ連合会の会長さんが言われたように、住民の皆さんと、ドア・ツー・ドアがどんな形があるか。まだ2つのものをどうしたいという段階ではないため、ほかの自治体の事例をいくつか紹介できればと思います。

大町町、白石町、多久市、小城市の4つの市町は。江北町のお隣の市町ですが、それぞれ地域公共交通に関して何らかの取り組みを行っています。この委託を受けて運行しているのは、タクシー会社です。運行エリアはその市町内のみで、乗降場所も路線も決まっています。先ほどの（老連会）会長さんの話からも、ドア・ツー・ドアへのニーズが大きいと思いますが、調べたところ、お隣の市町は乗降場所を限定されています。料金は100円から200円で利用しやすいものとなっています。

ただ吉野ヶ里町は乗降場所が自由なドア・ツー・ドア型です。吉野ヶ里町の取り組みが参考になるのではないかと思います。

江北町には2社のタクシー事業者がおられます。本日紹介した事例が江北町の今後の取り組みに繋がってくる可能性もあると思います。

議題③今後の地域公共交通の在り方について要望・ご意見

【佐賀県交通政策課】

吉野ヶ里町の事例についてですが、現在、乗り合いタクシーという形で、ドア・ツー・ドアで運行しています。

ご利用に際しては、事前に出発地、目的地等登録をしてもらい、その設定に基づき、出発地から目的地まで送っています。

【佐賀運輸支局】

県内の地域公共交通の事例ということで、多久市の「チョイソコたく」は、AIの予約システムを導入しています。従来は、電話とか、手作業でやっていたのが、効率的な業務ができるのが、大きな特徴です。ただ、AIでないと便利ではないというわけではなく、大町町のまちバスはAIの予約システムなどはないが利用者は右肩上がりです。

大切なのは、この会議で皆さんがニーズや課題を共有し、資源は限られているため、限られた条件の中で、どれだけニーズや課題を捉えた持続可能な施策ができるかが重要だと思います。

【老人クラブ連合会会長】

我々は、「嘆願書」を作成しました。できるだけ早く進めて頂きたいです。事故に遭うお年寄りもいます。安心して免許返納できるように、できるだけ対策は急いでほしいです。老人は、収入は年金のみです。利用しやすい施策にして頂きたいです。

【山田町長】

誰も何もやってくれないから、自分たちで何とかする、という風になってはいけないと思います。やはり町に課題が突きつけられていると思います。

設置要綱第9条にある「幹事会」を置いて対策を検討するのも有効ではないでしょうか。

ドア・ツー・ドアと循環バスの2つがありますが、特に高齢者の皆様の切実なニーズに応えるには、ドア・ツー・ドアのあり方を考えないといけないと思います。先ほど申し上げたように、ぜひ、タクシー事業者さんのご協力を頂き、また、県からのご指導も頂き、先ほどの吉野ヶ里町をそのままなぞらせるわけではないですが、江北町としては、こういうやり方があるのではないかという案を、早めに考えさせて頂いて、この会議に出させていただくのがいいのではないかと思います。幹事会で作業、事務等をタクシー会社さんにも入って頂き、やるのも一つのやり方と思います。

【佐賀タクシー】

何もわからない状態でできますとは言いませんが、できることは協力します。

【杵島タクシー】

乗降場所が決まっているやり方に対して、ドア・ツー・ドア型があります。上小田地区は山手になっています。お年寄りで、バス停まで来るのが大変な方もいらっしゃいます。現に2年ほど前、8月の炎天下の中、病院の送迎バスに乗るために乗り場に向かっていて、途中で転倒しアスファルト上で立てずにいた方を、たまたま私の家内が見つけて救急搬送したという事例もありました。今後こういうことが考えられますので、なるべく町民に寄り添った対策を考えていきたいと思っていますので、山間方面のことよろしくをお願いします。安心して免許返納できるように、できるだけ対策は急いで頂きたいです。

【佐賀タクシー】

杵島タクシーさんは上小田地区を中心に営業されており、弊社は、江北駅を中心に営業しています。実際に利用される方には、高齢者の方もいらっしゃいます。しかし今、若年層も含めて利用があります。域外から江北駅を入口としてという方々と、江北駅から域外へという方々の2次交通の要素が非常に強いです。よって、本日のこの会議では、専ら高齢者の方の移動の足が中心であり、そこが解決すべき課題であるということのようですが、現状の形では、いわゆるタクシーというものが持続できるか、という点で非常に厳しいということがあるので、単に乗合的なタクシーの立場が確保されたら問題が

解決するというものではないと考えます。その前提として、現状の体制が維持されているかということ、現状の体制が非常に厳しいということも同時に考えなければならないと思います。昨年来の様々な動きの中で、弊社としてもどのように対応すべきか苦慮している所です。そうしたところを合わせて見直し頂いて、弊社としては、できるところは前向きに考えていきたいと思っています。

【会長】

「幹事会」を設置するという事で、内容については次回会議で報告願うということになると思います。

今後の全体的なスケジュールはどのように考えたら良いでしょうか。

【山田町長】

特に2回目は決めていませんが、7月には、幹事会も含め第2回目をするようになるのではないのでしょうか。

【大西未来ネットワークの会】

大西未来ネットワークとして、いわゆる自分たちの近場の交通弱者で、病院、買い物等、移動に困っている方のために自分たちでできることをやろうと、昨年7月に立ち上げた会です。全部の地区の課題に取り組む、移動の足がテーマです。公共交通というレベルではないです。誰かの役に立ちたいという思いです。

○ その他（なし）

○ 閉会（山中課長）